

# かがやき

令和4年 1月 14日 (金)  
多摩市立連光寺小学校  
特別支援教室 かがやき学級  
学級通信 NO. 14

## ～いろいろな色「カラフル」と、いろいろな色がある「背景」を知ること。年末の歌番組より～

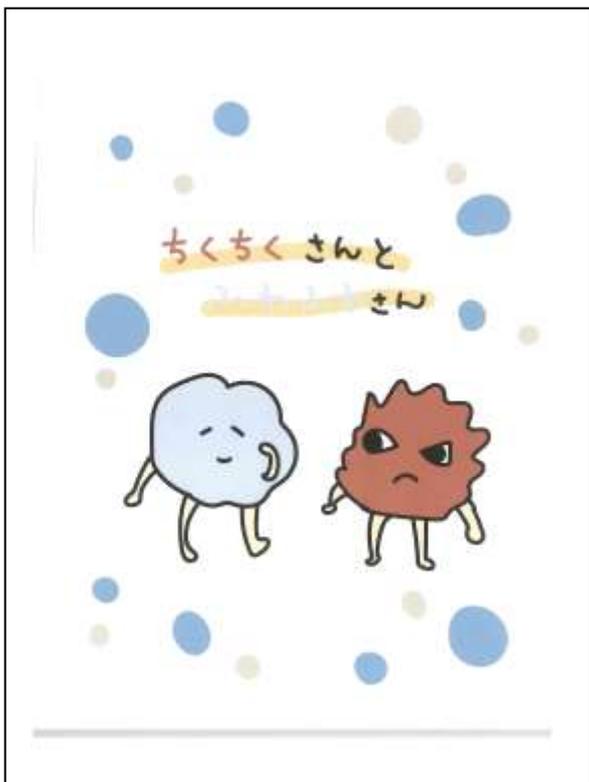
令和4年。2022年が始まりました。明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。先週は多摩地域でも雪景色が広がりました。交通機関の混乱は大変でしたが、あちこちで子供たちの元気な声が聞こえていました。学校生活も年度末に向けてのスタートです。新年度に向けての0学期という表現をすることもあります。健康に元気に楽しみながら1年が始まっていくことを祈ります。

さて、今年は年度末に放送された某テレビ局の恒例歌番組のテーマから少し話を始めていきたいと思えます。昨年のこの番組のテーマは「カラフル」というものでした。某局の広報によれば「年末の世の中をカラフルに彩りたい。多様な価値観を認め合い、あらゆる色が集い、重なり合いたたえ合い・・・」という意味が込められていたとのことでした。番組では様々な歌や企画がありましたが、司会者の服装の色やコメント番組全体のイメージもこれまで踏襲してきた番組の意図（男女が二つの色に分かれて競い合う）という形を越える意識があったように感じました。こうした変化の背景には多くの人々が「セクシャリティー」の色は二つだけではなくなくなってきている。という感覚を日々の生活やニュース、映画、テレビ、ドラマ等々を通して「知ったり、実感したり」することが増えてきたこと。当たり前になってきたことが大きいのかなあと想像します。現実には「セクシャリティー」に対する感覚からすれば社会全体が「そうですね」とならないこともまだあるのですが、今の社会にある個々の価値観や考え方。感覚の「多様化」や「あり方」に出会うことや「知ること」「理解が必要になること」はこれまで以上に多くなってきたのは事実であると思えます。今回、どうしてこの「カラフル」の話をしたかということ、学校の中においてもこうした「変化」は進んでいると感じるからです。大人も含め、子供たちの学校生活や学習の中に、これまで感覚的にしかわからなかったこと（得意や苦手なことや自分の感覚）が見えるようになっていたり、理解されるようになってきたりしてきていることが多くあります。ともすれば、こうした見えるようになっていたり理解されるようになってきたりする「感覚」や「ちがひ」について学校や家庭、地域社会全体がどのように寄り添っていくか。受容していくか。そんなことが求められているように思うのです。私たち大人も含めてのことですが、子供たちの世界はさらに「カラフル」そのものでもあります。いろいろな「色」をもった人がいて様々な輝き方がある。「方法や見方や感じ方は一つではない。」こんな気持ちが学校でもさら深まっていければいいなあと年末の恒例歌番組を見ながら思いました。

## お知らせ

☆年度始めにお渡しした年間予定に2月に個人面談が入っていましたが、昨年末に実施したので行いません。

☆3月中旬に年度末の保護者会を予定しています。詳細については、後日お知らせいたします。



「ちくちくさんとふわふわさん」  
 かがやき学級／企画：SO先生  
 著：専門員FN先生

真面目だけれども、少しでも自分のペースを崩されると、怒りが抑えられなくなる「ちくちくさん」。怒って物を壊してしまうこともしばしば…。そんな自分自身について『どうしたらいいのだろう?』と悩んだところで、お兄さんである「ふわふわさん」が登場。どんな解決策を教えてくれるのか? また、ちくちくさんは今後どうなっていくのか…!?

話が気になる人は、かがやき教室で読んでみてね。

(画像はそれぞれ絵本の抜粋)

